

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	伊万里市立伊万里小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>「響け 伊小の会」の活動(地域との連携活動)に取り組んでいることで、地域への貢献度が向上している。</li> <li>不登校傾向(登校しぶりなど)児童や気になる児童については、全職員で共有し、校内における支援体制の強化を図っていくことを共通理解した。また、関係機関(SC、SSW、市福祉課等)との連携も深めていく。</li> <li>保護者のアンケートの結果より、「子どもはきちんと朝食をとっているか」、「宿題に目を通しているか」、「挨拶についての指導を行っているか」等の回答率が前年度より低かったため、家庭での教育の役割等について育友会と連携しながら啓発していく。</li> <li>「働き方改革」について、具体策を講じ、よりよい職場づくりを目指す。</li> </ul>
2 学校教育目標	<p>『 輝け! 伊万里小 』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人ひとりが伸びる学校</li> <li>○笑顔と活気にあふれる学校</li> </ul>
3 本年度の重点目標	<p>—『きらきら伊万里っ子プロジェクト』の推進— &lt;7つの目標の具現化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○返事が響く</li> <li>○感謝の言葉があふれる</li> <li>○挨拶が響く</li> <li>○思いやりにあふれる</li> <li>○明るい声と歌声が響く</li> <li>○笑顔があふれる</li> <li>○活気にあふれる</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でのマイプランを共有するとともに、校内研修等での取組の促進を図る。	B	・計画したマイプランとのずれが出ているが、達成に向けて再確認し、取り組んでいく。 ・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は約50%。	B	・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は約60%だった。	B	・コロナ禍でありながら、先生方のがんばりが伝わってきた。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○意欲的に取り組む児童の育成 ○「活用問題ができる力」が身につく授業の実践	○「学校は個に応じた指導をしている」と回答した保護者80%以上 ○12月の佐賀県小・中学校学習状況調査の「記述式」問題において、正答率50%以上	・児童の実態把握と個に応じた指導を充実させるための時間を設定する。 ・条件に沿って授業のまとめをしたり、作文をしたりする活動に各単元1回以上取り組ませる。(例:50字以内で、キーワードを使って、自分の考えを入れて等)	B	・個に応じた指導の時間を確保し、「できた」「わかった」という思いを持つ児童が増えている。 ・12月の佐賀県小・中学校学習状況調査の「記述式」問題において、正答率50%を下回る。	B	・「学校は個に応じた指導をしている」と肯定的な回答した保護者が90%以上だった。 ・記述式問題や条件付き作文、授業中に説明した言葉を使ってまとめる学習を継続してきた結果、活用力問題の正答率向上につながった。	B	・学習状況調査の結果によると、県平均よりなかったところが多く、子供達のがんばりも伝わった。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●「根っこ教育」の充実 ～「3つのあふれる」を中心に～	○「感謝の言葉や思いやりの言動が増えた」と回答した保護者80%以上 ○『市作成の「いのちの教育指導資料」と『伊万里っ子しぐさ』を積極的に活用している』について、肯定的な回答をした教師70%以上	・各学年の企画書の中に具体的方策を明記し実践していく。 ・市作成の「いのちの教育指導資料」と『伊万里っ子しぐさ』を年間指導計画に位置づけ活用を推進する。	B	・各学年の企画書の実践については、学年により取組率が違うので、共通実践に向けて呼びかけていく。 ・児童会活動で、もとなかよくなるための話し合いを行い、全校で取り組んだ。 ・市作成の「いのちの教育指導資料」と『伊万里っ子しぐさ』を積極的に活用している』について、肯定的な回答をした教師50%。	A	・「感謝の言葉や思いやりの言動が増えた」と肯定的な回答した保護者が約88% ・市作成の「いのちの教育指導資料」と『伊万里っ子しぐさ』を積極的に活用している』について、肯定的な回答をした教師が約71%。	B	・できている児童も多いが、過激な言葉もしばしば耳にし、気になっている。	・道徳教育推進教師 ・各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていく」と肯定的に回答した教員80%以上	・いじめの対応についての研修を適宜行い、職員の意識を深めていく。	B	・気になる言動については、生徒指導主任へその都度報告があるが、いじめについての職員研修を実施する予定である。 ・いじめ防止等について組織的対応ができていくと回答した教員80%。	B	・いじめ防止等について組織的対応ができていくと回答した教員が約95%。 ・「いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)の研修会を行い、いじめに対する認識を共通理解した。	B	・気になる言動があったことを、先生方は把握していても親が知るのには後になってしまったケースもあり、スピード感を持って欲しい。	・人権・同和教育主任 ・生徒指導主任 ・各学年主任
	◎全校児童が、地域とつながる行事等へ参加し、郷土愛を育む教育活動	○「自分の住む町が好きである。」について、肯定的な回答をした児童90%以上	・地域の教育資源や人材を活用した教育活動(体験活動)を実施したり、地域とつながるプロジェクトを実施したりする。	B	・実施することが難しい状況ではあるが、できる活動は対策をしっかりとって実施している。	B	・「自分の住む町が好き。」「だいたい好き」と答えた児童が約93%。	B	・自分の住む町が好きになることで、地域の方へのあいさつ等もよくなると思う。	・教頭 ・各学年主任
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と肯定的に考える児童95%以上 ○朝食をとって登校する児童95%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施し、適宜指導していく。 ・保健だよりを発行する。	B	・栄養指導職員による食育指導を中学年で行った。全学年への給食指導に取り組んでいる。 ・「健康に食事は大切である」と肯定的に考える児童95%。	B	・「健康に食事は大切である」と肯定的に考える児童が約98%。 ・「朝食をとらずに登校している」児童が前年度より増えた。	A	・各家庭での意識、行動の問題であり、保護者に呼びかけていきたい。	・保健主事 ・学校栄養職員 ・食育推進担当者
	○「運動習慣の改善や定着化」	○外遊びをよびかけ、運動場で毎日遊ぶ児童70%以上	・昼休みの外遊びの励行や、職員自身も運動に親しむ意識を向上させるような取組を保健部が中心になって行う。	C	・外遊びをする児童が固定化してきている傾向がみられるので、外遊びを推奨していきたい。 ・外遊びができていく児童75%。	B	・外遊びができていく児童が、寒くなったせいもあるのか約68%に減った。	A	・子供は遊びは大切である。どんだん呼びかけて欲しい。	・体育主任(保体部)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限の遵守	・定時退勤日を設定する。 ・部活動(コーラス部)の休養日を設定する。	C	・行事等が続き、なかなか実践できていない。意識を変えよう呼びかけていく。 ・全職員の時間外勤務時間の平均32時間。	B	・全職員の時間外勤務時間の平均約31時間。 ・部活動(コーラス部)の休養日はきちんと設定した。	B	・難しい問題だが、簡素化や省略できる業務を見直し効率化を進めて欲しい。	・管理職
	○学校行事や業務内容等の改善	○「働き方改革ができていく」について、肯定的な回答をした教員70%以上	・校内・校外行事の見直しや通知表(あゆみ)の作成について検討、改善していく。	B	・見直しをしたことで前年度よりゆとりが出てきたように感じている教員70%。	B	・「働き方改革ができていく」について、肯定的な回答をした教員が約70%。	B	・教員負担を減らすためにも、育友会に相談することもあっていいのではないか。	・管理職 ・教務主任

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○「きらきら伊小っ子プロジェクト」の推進	○7つの具体的な目標の実践 ・返事が響く ・挨拶が響く ・明るい声と歌声が響く ・感謝の言葉があふれる ・思いやりにあふれる ・笑顔があふれる ・活気にあふれる	○「返事や挨拶がきちんとできている」と回答した児童90%以上 ○「『ほかほか言葉』や『ありがとう』がよく言えるようになった」と回答した児童80%以上	・7つの目標について、校内や公民館等に掲示する。 ・「ほかほか言葉運動」と「ありがとう運動」を展開する。	B	・7つの目標を教室や校内のいろんな所に掲示した。また、看板や横断幕を作成し、全員で取り組んでいる。 ・「児童は、返事や挨拶がきちんとできている」と回答した教員60% ・児童会活動で取り組んだことで、「児童は、『ほかほか言葉』や『ありがとう』等、思いやりの言葉がよく言えるようになった」と回答した教員60%	B	・返事や挨拶が「できていく」が「大体できている」と答えた児童が約92%。 ・「児童は、返事や挨拶がきちんとできている」と回答した教員は約70%となった。 ・「ほかほか言葉」や「ありがとう」が「よく言える」が「大体よく言える」児童が約93%。	A	・挨拶はきちんとできている印象が強い。今後も続けて欲しい。 ・基本的で、大切な事ばかりである。「きらきら伊小っ子プロジェクト」に期待しています。	・各学年主任 ・教頭
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○「特別支援に関する専門性が向上した」と肯定的な回答をした教員70%以上	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・ケース会議を開催したり、情報共有の機会を設定したりする。	B	・「気になる子」の研修やケース会議を開き、職員全員で共通理解して取り組んでいる。 ・「特別支援に関する専門性が向上した」と肯定的な回答をした教員60%。	B	・「気になる子」についての共通理解の場を、月に2～3回継続的に実施してきた。 ・ケース会議を5回実施。 ・「特別支援に関する専門性が向上した」と肯定的な回答をした教員が約83%。	A	・いろいろな特性を持つ児童が増えているようで、一人一人への対応が大変だと思う。保護者との連絡を密にして子供の成長を支援して欲しい。	・特別支援コーディネーター ・教育相談主任
○地域・保護者との連携	○家庭での役割や責任を明確にしている ○コミュニティ・スクール開校に向けての準備	○家庭での教育についてのアンケート(特に、朝食、家庭学習、あいさつ)の回答が、前年度結果以上 ○コミュニティ・センター行事や地域行事への参加率が前年度以上	・家庭学習アンケートを実施し、実態を把握したり、「家庭学習のすすめ」を発行したりする。 ・コミュニティ・センター行事や地域行事への参加を促す。	B	・学期に1度、宿題強化週間を全校で設定し、家庭学習の習慣化を図っていく。 ・コミュニティ・センター行事や地域行事への参加率が前年度より向上している。	B	・家庭学習アンケート調査から、朝食とあいさつの回答はよくなったが、宿題に目を通していない保護者が増えた。 ・中学校区コミュニティ・スクールについては、来年度の方針や会議日程等が決まり、準備が整った。	B	・地域学習はともていい取り組みである。毎年楽しみにしている。 ・学校、保護者、地域の連携をさらに深めて欲しい。	・校内研(家庭学習部) ・育友会担当者

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの状況次第で、自粛していた取り組みを活性化していく。</li> <li>・「いじめの未然防止、早期発見、対応」についての職員の意識を高めていく。</li> <li>・啓成中学校区のコミュニティ・スクールが始まることから、保護者や地域との連携を積極的に図っていく。</li> </ul>